IPBESからのメッセージと日本への示唆

～令和2年6月24日　2019市民版環境白書「グリーン・ウォッチ」発行シンポジウム～

IGES NRE 髙橋康夫

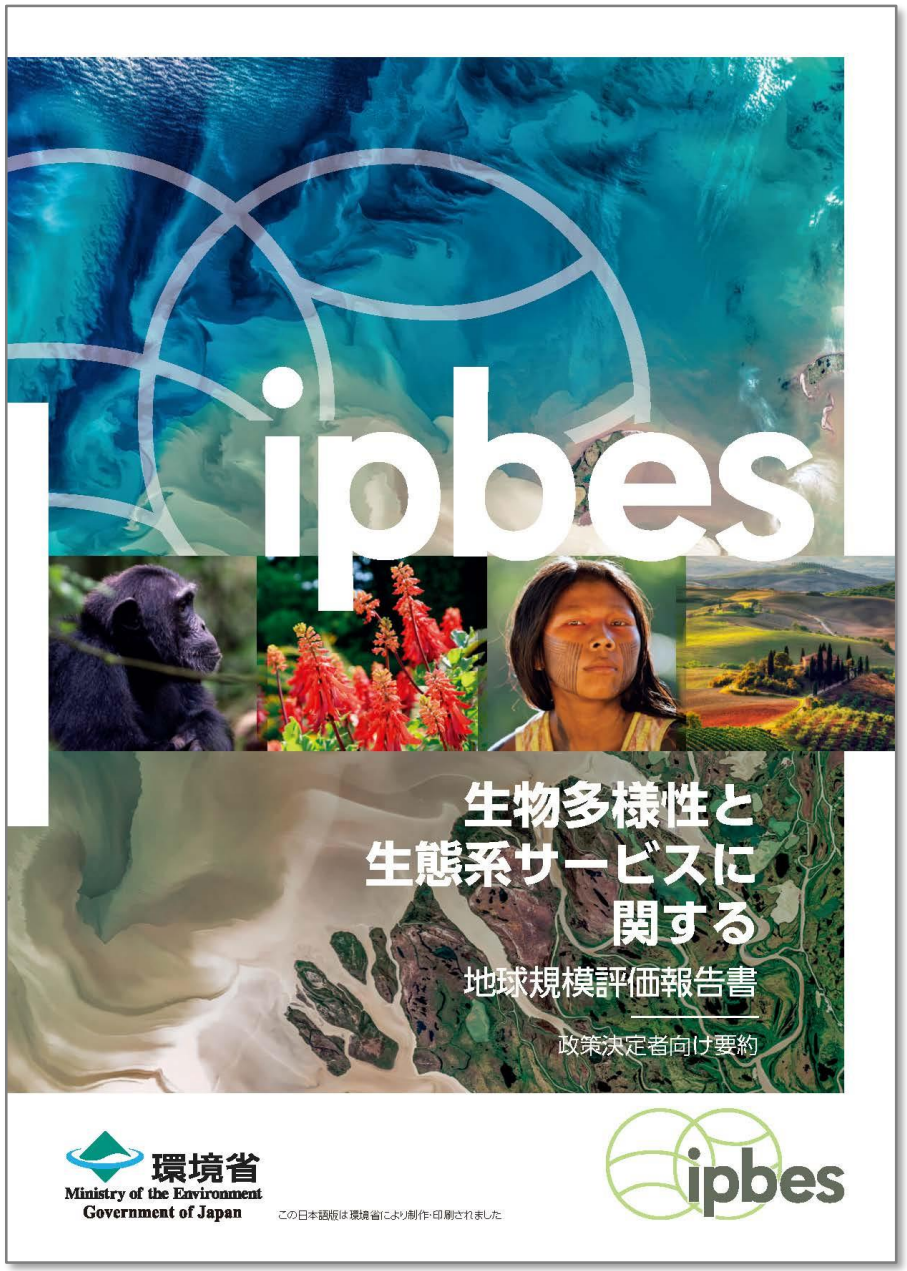
IGES
公益財団法人
地球環境戦略研究機関

ポイント

1. IPBES地球規模評価報告書の要点～自然は人類の生存やSDGs達成に欠かせない基盤であり、この基盤が急速に失われている
2. 市民にできること～地球市民としての行動、「日常」の見直し
3. IPBES～科学的根拠に基づく政策決定を世界に促す、生物多様性版IPCC

1. 自然は人類の生存やSDGs達成に欠かせない基盤であり、この基盤が急速に失われている

—IPBES地球規模評価報告書の要点—



人は自然に頼っている

20億人　木質燃料を主なエネルギー源に利用

40億人　自然由来の薬を利用

70%　自然由来または自然界から着想を得て合成されたがん治療薬

75%　動物による花粉媒介が必要な食糧作物の割合

60%　生態系による人為起源の大気中炭素の吸収量

調節機能：大気・水の浄化、土壌形成、自然災害リスクの軽減

無形の恵み：インスピレーション、学習、アイデンティティ形成

自然はSDGs達成の基盤

直接貢献　　間接的に貢献

自然が急速に失われている

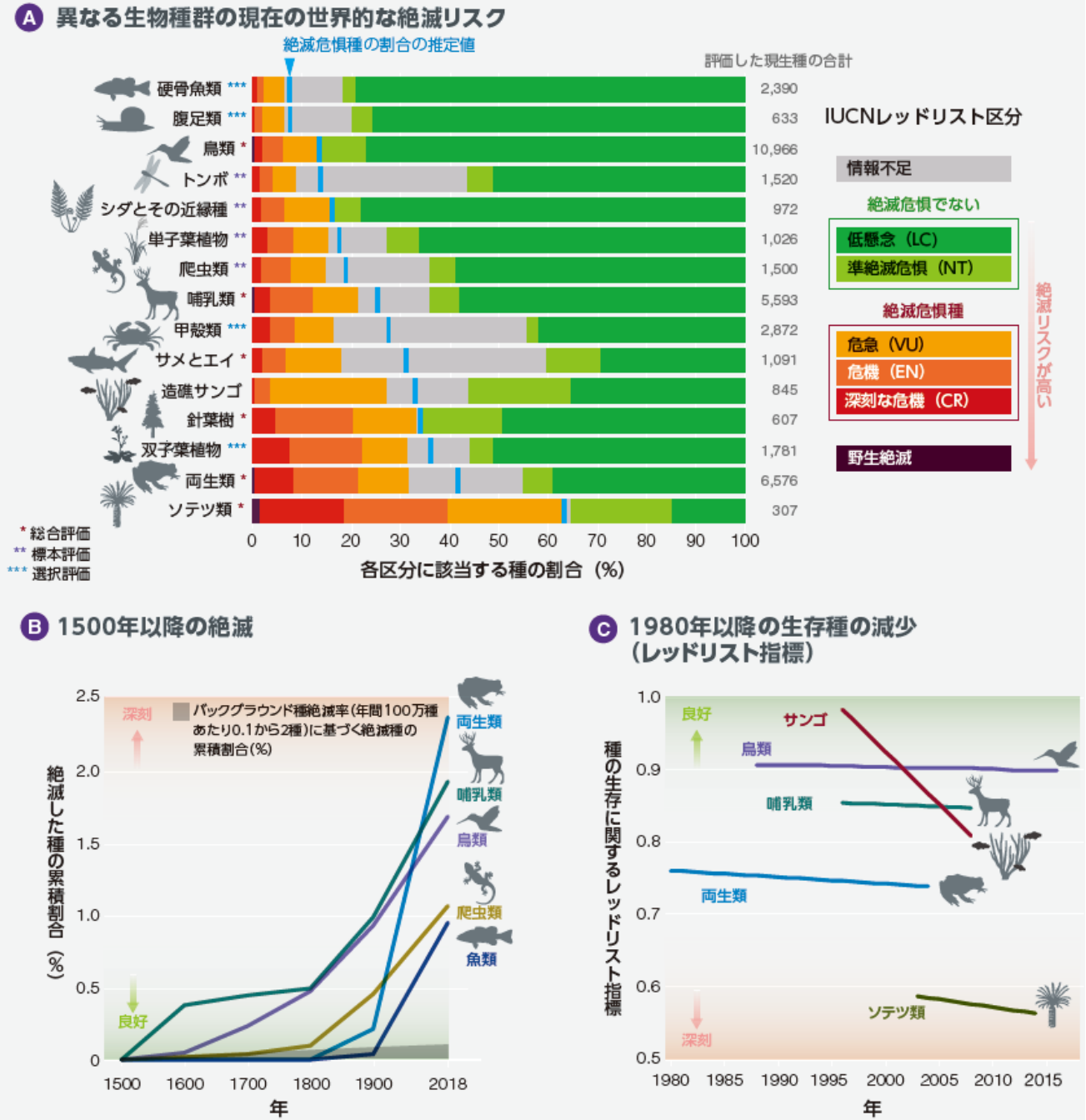
- 過去50年間で農業生産と木材生産は増加
- 漁業資源、調節機能、無形の恵みは一律減少
- 推定100万種の絶滅危機
- 作物や家畜の地域品種、野生近縁種が減少
- 人類の将来の選択肢の喪失

その直接・間接の要因

陸上：土地利用（油ヤシ農園や放牧など）＞直接採取＞気候変動＞汚染＞外来種

海洋：漁業資源の乱獲＞海域利用＞気候変動＞汚染＞外来種

間接要因：大量消費、国際貿易による消費者の「目隠し」など、グローバル経済の構造的なもの



社会変容（トランスフォーマティブ・チェンジ）の要請

特に介入点（レバレッジ・ポイント）で適用される、統合的、順応的、情報に基づく、包摂的なガバナンスアプローチ（スマートな政策の組み合わせを含む）

複数主体によるガバナンスの介入（レバー）

- インセンティブと能力強化
- 部門横断的な協力
- 先制行動
- 強靭性（レジリエンス）と不確実性を考慮した意思決定
- 環境法とその実施

介入点（レバレッジ・ポイント）

- 豊かな暮らしについての多様な観念（ビジョン）の受容
- 消費と廃棄の総量の削減
- 価値観と行動の解放・拡大
- 不平等の是正
- 保全における正義と包摂性の実践
- 外部性とテレカップリングの内部化
- 環境にやさしい技術、革新と投資の確保
- 教育および知識の形成と共有の促進

反復学習のループ

2. 地球市民としての行動、「日常」の見直し

―市民にできること―

- ◆ おカネやモノに囚われない豊かな暮らし
  ～シンプルライフ、ロハス
- ◆ 消費と廃棄を減らす～肉食やフードロスを減らす、広告の見直し
- ◆ 環境や他の生き物に対する責任感と行動
  ～エコラベル商品やオーガニック食品の選択
- ◆ 自然との共生に向けた、関係者みんなが参加する意思決定のしくみ
- ◆ 環境にやさしい技術、革新と投資を促す～ソーシャルビジネス、産官学連携
- ◆ 教育と知識の生産・共有を促す～子どもの自然とのふれあい活動への参加や場の提供、伝統知識の伝承と利用、環境・市民教育

3. IPBES～科学的根拠に基づく政策決定を世界に促す、生物多様性版IPCC

これまでの主な評価報告書

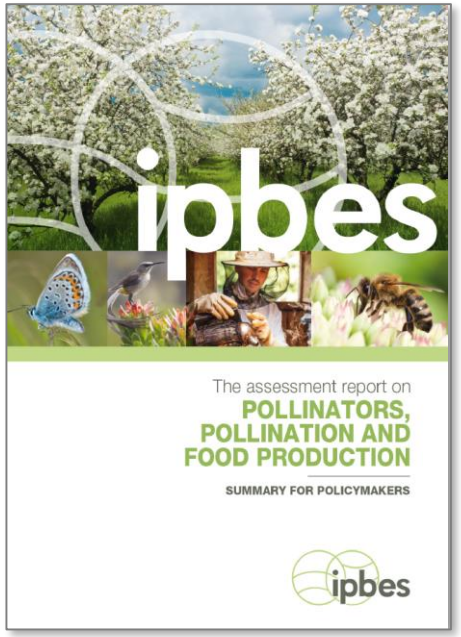
- 花粉媒介～動物が食料生産に果たす役割と農薬の脅威
- 地域・準地域（アジア太平洋）～経済成長に伴う熱帯林の消失、伝統知識の喪失
- 土地劣化と再生～深刻な土地劣化、大量消費ライフスタイルへの警鐘

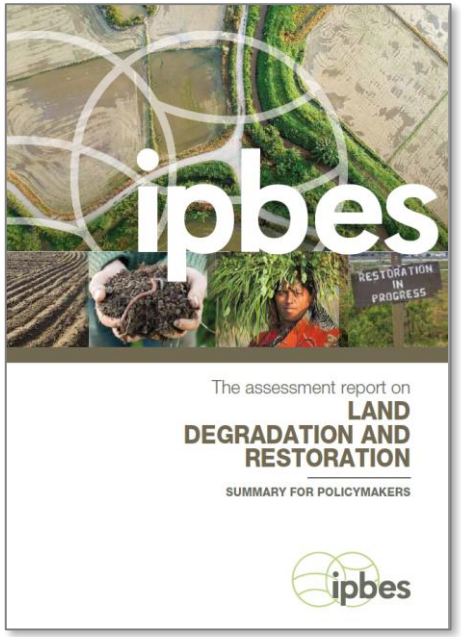
今作業中の評価報告書

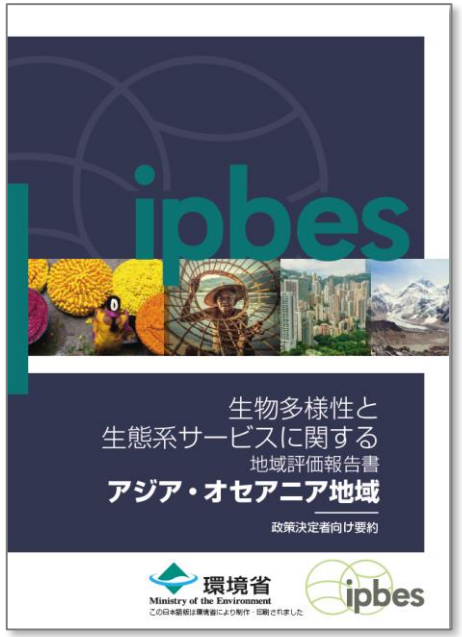
- 生物多様性の価値
- 野生種の持続可能な利用
- 侵略的外来種

今後作成予定の評価報告書

- 生物多様性、水、食料と健康
- 社会変容
- ビジネスと生物多様性







ぜひ、お手に取ってご覧ください

IPBES地球規模評価報告書・政策決定者向け要約
https://www.iges.or.jp/jp/pub/ipbes-global-assessment-spm-j/ja

IGES NRE

髙橋康夫

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関